



令和7年8月29日

園 だ よ り

たかがみねこども園

日が暮れるのが少しずつ早くなり、秋の気配を感じるようになりました。夏の遊びを存分に楽しんだ子どもたちは、心も体もひとまわり大きくなったように感じます。朝晩の空気も涼しくなり、季節の移り変わりをを感じるこの頃。体調を崩しやすい時期ですので、ご家庭でもどうぞお気をつけください。

～ 9月の目標 ～

- ☆ 秋の自然を感じながら、のびのびと戸外で遊ぶ。
- ☆ 運動遊びを通して、体を十分に動かし、元気な体をつくる。



「すごいね！」が口ぐせになっていませんか？

子どもが何かをやり遂げたとき、つい「すごいね～！」「えらいね！」と声をかけてしまうことはありませんか？もちろん悪いことではありませんが、それだけでは、褒めているのに子どもの心に残らないことがあります。実は、子どもの心に届く褒め方と、ただの“音”として流れてしまう褒め方には、大きな違いがあります。

■ 行動と気持ちに目を向けて褒める

大切なのは、「何をしたか」＋「どう感じたか」を伝えることです。

例1

- × 「すごいね！」
- 「最後まで頑張ったね。あきらめなかったの、かっこよかったよ。」

例2

- × 「えらいね」
- 「お友だちに貸してあげたの、優しい気持ちだったね。」



子どもは「行動を見てもらえた」「気持ちをわかってもらえた」と感じることで、“本当に褒められた”という満足感を得ます。

■ 結果より“過程”を褒める。

「できた」という結果はもちろん素晴らしいことですが、それ以上に大切なことは、“そこにたどり着くまでの努力・過程”。「ボタンを留めるの、一人では難しいのに、最後までがんばったね」「一生懸命練習してたのママはちゃんと見てたよ」こんな声かけが、子どもの心に深く響き、自己肯定感を育てていきます。

■ 質問で広がる会話

褒めるだけでなく、質問して子どもの思いを引き出すことも効果的です。

- ・「楽しかった？」ではなく、「どんなところが楽しかった？」
- ・「上手にできたね」ではなく、「どうやって作ったの？教えて！」

こうした会話のキャッチボールは、子どもの気持ちを引き出し、心を満たすだけでなく、親子の関わりをより豊かにします。

「すごいね」にほんの少し言葉を添えるだけで、褒め言葉はぐんと深く届きます。日々の小さな声かけが子どもの“自信”と“やさしさ”を育てますので、ぜひご家庭でも取り入れてみてください。